

## 視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成30年1月22日（月）（日数1泊2日）
2. 場 所 千葉県柏市
3. 視察、研修事項 「公・民・学」が一体となった街づくり  
市庁舎整備について
4. 面 接 者 地域づくり推進部 秘書課長 星 雅之  
総務部 資産管理課長 有賀 浩一
5. 視察研修、研修会の成果

大雪が予想される1月22日 朝7:00矢板市を出発 千葉県柏市を目指し 東北道より柏市に予定よりやや早く着くことが出来た。

柏の葉スマートシティを見学させていただき「公・民・学」の推進した建物づくりの街と形成づくりを勉強し新しい街づくりの手法を学びました。人口の増加地区と旧市街地区の違いを目の当たりに実感を感じました。その後 柏市役所へ立ち寄りプレハブ工法の市庁舎を見学した。

プレハブ工法の市庁舎は 我々がイメージしたプレハブ工法の概念があまりにも強く感じており 庁舎も粗末な簡単建物とっていたが 外観そして内部の室内の様子は一般的な市庁舎とほとんど変わりがなく その違いを感じ取れなかったが プレハブ工法とは柱の部の鉄骨部分にコンクリートが注入されていないで 柱の形状は四角い形状になって居り 強度は確保されてお

り 安い手法での庁舎は今後の検討の余地を多く含んでいるとの事を強く感じた研修でありました。

## 視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成30年1月23日（火）（日数1泊2日）
2. 場 所 千葉県柏市
3. 視察、研修事項 柏市のかしわインフォメーションセンターの  
視察について
4. 面 接 者 柏市インフォメーション協会事務局長 小島和子
5. 視察研修、研修会の成果

かしわインフォメーションセンターは 柏駅の2階に位置しており 主な内容は 柏市人口41万人の街を形成していますが柏市の外国人の対応 又 柏市の街の総合案内所 又 柏市に来る人々の道案内を主に 平成13年10月1日オープンし 理事7名 正会員19名で構成しており予算的に年間3530万円で 午前9:00より午後7:00まで営業しており まち案内事業・情報発信事業・街づくり事業 等を活動の中心に事業の展開を図り 柏市の市内業者の情報の発信を中心に 日々の活動を行ない PR活動に力を入れての案内活動であります。前日からの大雪のため 柏市を後に帰郷をしましたが 高速道・首都高・東北道 等 不通で道を選んでの矢板市までの道のりを帰って参りました事を報告させていただきます。

## 視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成30年2月5日（月） （日数2泊3日）
2. 場 所 鹿児島県始良市役所
3. 視察、研修事項 「子育て基本条例」の取り組みについて
4. 面 接 者 始良市教育長 小倉 寛恒
5. 視察研修、研修会の成果

始良市における「子育て基本条例」について 研修を始良市役所に訪れ 市教育長 小倉寛恒氏 教育部次長兼学校教育課長 小林俊一郎氏 教育指導係長 山崎省一氏 教育指導主事 益満陽平氏より 説明を受けました。

始良市は 平成22年に合併し人口75000人を有しています。鹿児島県43市町村のうち 唯一 人口が減少せずやや増加の77000人を維持 やや増加しています。

始良市は 桜島の北に位置し 鹿児島市に近く人口の流入も一部には見られます。始良市の教育の方針は「ふるさとを愛し 未来を切り拓く 心豊かでたくましい人づくり」を基本に 教育の最終の目標として三つの自立をあげ「生活の自立」「学びの自立」「社会への自立」を目指しています。この事を中心に 基本の方針は 現在の教育長である小倉寛恒氏が中心に県の教育行政に携わっていた頃よりの考え方を中心に始良市の教育基本条例制定に大きくかかわり 始良市子育て基本条例の立ち上げに中心的な役割を担いました。

この条例は 「目的」「基本理念」「家庭の役割と責任」「学校の役割と責任」「地域の役割と責任」「事業者の役割と責任」等 「市・家庭・地域・事業者」等の果たすべき内容 努力 目標 等が明確にうたわれています。この基本条例は平成 25 年 1 月 1 日から施行され 始良市の状況から各セクション毎に細かく解説された内容が後半に示されており この教育基本条例の内容は 市における目標 行動 指針として大きく役立っている条例であり 全国的にはまだまだ少ない条例であり 今後 各市町村において参考にされるべき内容を多く含んでいる状況であり 活字にしたわかりやすい行動指針として文章になって居り 教育行政の中で今後 普及すべき内容であるとの思いを強く感じ取った研修でありました。

## 視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成30年2月6日（火）（日数2泊3日）
2. 場 所 宮崎県小林市
3. 視察、研修事項 小林市の新庁舎建設について
4. 面 接 者 管財課 主幹 館下 昌幸
5. 視察研修、研修会の成果

新庁舎の建設の研修については 議会総務文教委員長の鎌田豊数氏より歓迎の挨拶を受け 新庁舎建設経過を含めて担当者より説明を受けました。

前の庁舎は 昭和39年に建設され築50年を迎え 庁舎の老朽化・耐震性の問題もあり災害的対応の難しさもあり 平成22年3月 1町1村との合併後の建て替えに向けスタートでした。平成22年に基本方針策定委員会 平成24年5月に基本構想 平成25年7月に基本計画 平成26年4月から一年間にかけて基本設計 平成27年11月には実施設計が完了して 12月議会では建設費の予算承認がなされ 平成28年3月より建設が始まり 平成29年6月に庁舎建設が完了して8月には開庁した。それから6か月 新庁舎での仕事も始まりました。今は外構工事が行われ3月末までには完了の予定だそうです。

新庁舎の特色は 市民利用の多目的スペースの確保 そして市民利用の会議室の設置 等をあげ 防災・耐震の基準のクリア そして自家発電は72時間対応をはかり機能の充実を図った。また 小林市の市有林の活用を図り ス

ギ・ヒノキの伐採量は 1920 m<sup>3</sup> 約 8080 本の材木を新たに切り庁舎建設に地元材として利用された。その内 構造材は 365 m<sup>3</sup> 内装材 320 m<sup>3</sup>を充当されました。庁舎本館は 4 階建て 床面積は 5010 m<sup>2</sup> 東館の議会棟は 3 階建て 1994 m<sup>2</sup>の木造構造であり 総延床面積は 7004 m<sup>2</sup>であり 事業費は 35 億 5000 万であり これは設計解体外構工事を含み 庁舎本体の工事費は 28 億 4000 万でありました。建設費用の出費については 平成 18 年合併のための合併特例債で 30 億円 4 億円は基金から 又 1.5 億円は一般会計より繰り出したとの事でした。

特に注目すべきは 市が木材を一貫して所有管理支給する方式を取り 7700 万円でスギ 7 割ヒノキ 3 割の木材を地元森林組合 業者を通じて伐採・製材をして保管して加工 庁舎利用した事により木材の香りがする庁舎建設され床も加工した木のフローリング 壁においても木材が使用されました。又 地元の 20 社の木材関係業者の中 10 社が参加協力をしていただき 地元材の利用につながりました。特に議会棟の議場はすべてに木材利用の型式がとられ木材の温かみのある木の香りのする議場になっていました。

地元の産材利用とコスト低減を図りながら 耐震対応の庁舎建設が行われ小林市の行政の方向性を示した街づくりを強く受けとめ 矢板市の庁舎の方向性の中でも多方面の分野での検討がなされる必要性を感じ取りました。

## 視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成30年2月7日（水）（日数2泊3日）
2. 場 所 宮崎県日向市
3. 視察、研修事項 日向市新庁舎建設について
4. 面 接 者 総合政策部 新庁舎建設課長 植野 浩人  
総合政策部 新庁舎建設課長補佐 和田 康之
5. 視察研修、研修会の成果

行政視察について 日向市議会議長の甲斐敏彦氏より 御挨拶があり研修に入り 植野浩人課長（新庁舎建設）と和田康之課長補佐2人を中心に説明を受けました。日向市は人口62420人であり新庁舎の建設については 平成24年新庁舎に関してアンケート用紙にて調査して 敷地面積21986㎡の中に建築面積は3220㎡ 延床面積は11573㎡で 鉄筋コンクリート4階建 高さ22.74m 駐車場274台で内装材がスギ・ヒノキを使用して 工期は平成28年1月から始まり平成29年12月までに完了しています。今は内装の絨毯等 一部補足工事を実施しており 30年5月に使用開始の準備段階になっていました。新庁舎に移行すれば 平成30年6月から平成31年3月までに現庁舎の解体を行ない すべて完了の運びとなります。

新庁舎の整備方針は 災害に強い市庁舎を目標に7日分の非常用燃料の確保 7日分の雑用水 3日分の浄水を確保する事になっておりました。又 環境を



配慮した構造になっており 建物の周囲を4方向とも張り出しを作り「日向テラス」と名付け 強い日差しを受けるが環境にやさしい庁舎に 又 市民が集まれる場を考え合わせた居場所づくりを取り入れたとの事でした。又 開かれた庁舎を目標に東西南北 四方から入ることができ 市民の「たまり場」を重要視した建設がなされております。特に「陽だまり」「緑だまり」「水たまり」「風だまり」「人だまり」このような事を日向たまりと総称して名付け 新たな人の集まりを作るべきとして空間を演出しています。フロアは4階の作りになって居り 1階は「窓口部門」2階は「管理部門」3階は「事業部門」4階は「議会・教育部門」になって居り 広々としたまだ使用されていない新庁舎での利用状況をイメージしながら新庁舎の設計を考えながら 当市においての庁舎の考え方をあわせて 新庁舎建設を考え合わせた視察の内容でありました。